

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「勇者でもなく魔王でもなく——」

テーマ：「魔王にさらわれて勇者に助けられる予定だったのに、UFOにアブダクション(誘拐)されてしまったお姫様な美少女。」

キャラクター

60

ストーリー

60

テーマ(設定)

60

文章力

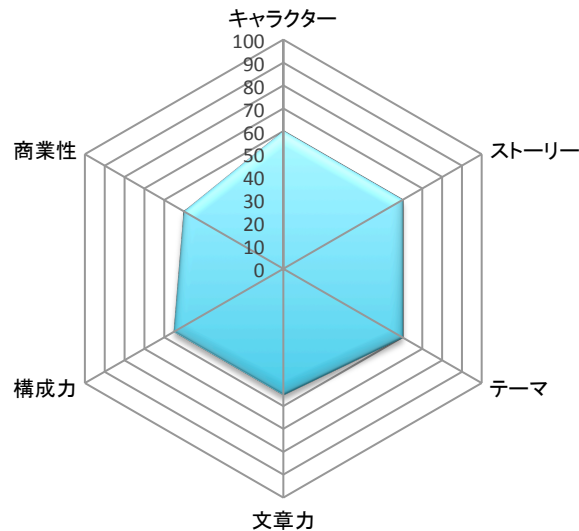
55

構成力

55

商業性

50



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- 意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- 「この作品の最大の魅力はこれ！」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・「UFOにアブダクション(誘拐)される」という、ファンタジーにあるまじき不条理によって、「『☆☆☆『UFO』☆☆☆突然のUFOの登場のあとにこのシュールな題名の表示が良かった。その他『戦うだけだからだよ!』等とても良かった。』
 ・全体として、この作品の魅力が何であるのかという点について一貫性がないように思われる。冒頭と終わりについては、突然UFOにさらわれ姫はのんきという若干シュールよりのギャグ展開、終わりは結局勇者も魔王もお説教一回でおとなしくなってしまうコメディ的な展開と、何かしらの形で笑いをとってこようという姿勢があるように見られる。しかし中盤のみ血が流れる多くの死が、私は何も知らなかったんだ——的な重いテーマとなっているので、最初と最後を笑いでサンドされている分中身のテーマがひどく軽々しいものに思えてしまい、読み手としては冷めてしまう。いっそ最初の村で姫を世話していた老夫婦が食料飢饉などに苦しみ、「ほとんどの収穫を国に税としてとられてしまうじゃ〜」的なことを聞いた姫様が「こんなことしてる場合じゃねえ」のノリでラスト魔王と勇者に「私なんかで争ってるよりこの国をどうにかする方が先でしょ!」的な終始ほのぼののシュールコメディにした方が一貫性があり読み手は安心して読み進められるのではないかと考えられる。(逆に終始「戦争とはなにか」的なシリアス雰囲気を通してほしいのであれば、UFOといった非現実的な要素を登場させるべきではない。本当に乱世を終わらせたいならUFOの力を借りようとする苦〜など色々問題が発生するため)

合計加点ポイント 0

総得点: 340 / 600

B方式総合得点: 19267 点